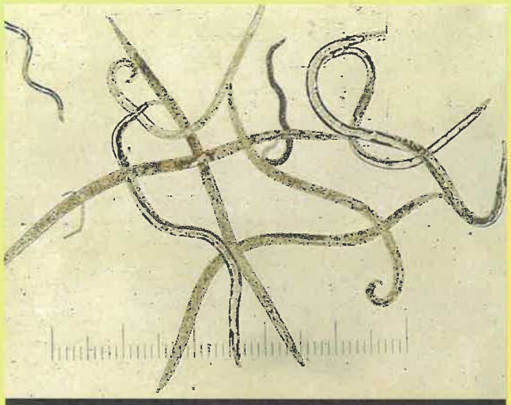
松くい虫とは

「松くい虫」とは、松に潜って材や樹皮を食うカミキリムシ類、キクイムシ類、ゾウムシ類等の総称で、主なもので10種類ほど知られています。
しかし、これらのほとんどが枯れた松にだけ進入し、生きた松を枯らすことはできません。

―― では、松を枯らす真犯人はいったい誰なのでしょう？

実は松を枯らす真犯人は、大きさが1mmにも満たないマツノザイセンチュウ（写真－1）という小さな線虫です。そして、その線虫を枯れた松から健康な松に運んでいるのがマツノマダラカミキリ（写真－2）というカミキリムシです。
つまり、「松くい虫」とは、マツノザイセンチュウとその運び屋であるマツノマダラカミキリとの相利共生（助け合い）によって起こる松の伝染病で、正しくは「マツ材線虫病」といいます。



写真－1　マツノザイセンチュウ

学名　：　Bursaphelenchus xylophilus
(Steiner et Buhrer) Niokle

・松を枯らす真犯人。体長は、1mmにも満たない。

・もともと日本には生息しておらず、北アメリカからの侵入種。北アメリカでは在来種のため、アメリカ原産の松にはほとんど病原性がない。
日本のアカマツ、クロマツ、リュウキュウマツは、出会ったことのない病原線虫のため抵抗性が低く、甚大な被害を受けている。

写真－2　マツノマダラカミキリ

学名　：　Monochamus alternatus HOPE

・マツノザイセンチュウは主にカミキリムシの気管の中に入り込み、カミキリムシがかじった傷口から松に侵入し、松を枯らす。

・1頭のカミキリムシが、272,000頭ものマツノザイセンチュウを保持していた事例がある。